



## 「6/27 梅雨明け 高温注意 ハダニ対策強化」

6/27に気象庁から梅雨明けが発表されました。今後も高温が続き、例年よりも早くハダニ類の発生密度が上がると予想されます。下記内容をご確認いただき、早期ハダニ防除対策を講じてください。

### 特別散布（散布時期：7月上旬～上中旬）

#### 【ハダニ対策】

主幹から約1mの範囲内にある葉を観察し、葉裏にハダニ類の発生が見られる場合は、「カネマイトフロアブル」の1,000倍（7日前、1回）を散布する。

\*農家在庫がある場合は、マイトコーネフロアブル1,000倍（前日、1回）でもよい。

### 第9回 定期散布（再掲載）

・果樹特報No6の「7月中下旬薬剤散布」の内容を再掲載しております。

#### 【重要】ハダニ類の発生が散見される場合

通常展着剤に代えて、機能性展着剤「スカッシュ」の1,000倍を使用して下さい。

#### 7月中下旬（定期）

\*目安：7月上旬の定期散布から15日以内

散布時期：7月15日～20日

散布薬剤： 水	100ℓ	
展着剤	10ml	
ダニコングフロアブル	50ml	（前日、1回）
キノンドー顆粒水和剤	100g	（14日前、4回）
⑧オリオン水和剤40	100g	（前日、2回）
オーソサイド水和剤80	125g	（前日、6回）

#### 【7月中下旬 定期】

散布日：7月 日

散布量： ℓ

散布量：10a当たり 600ℓ

対象病害虫：炭そ病、輪紋病、斑点落葉病、褐斑病

ハダニ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類

注意事項：①【代替】キノンドー顆粒水和剤、オーソサイド水和剤の2剤に代えて、オキシラン水和剤500倍（14日前、4回）でもよい。

②【重要】オリオン水和剤は劇物登録薬剤です。ご購入の際は印鑑をご持参ください。

\*展着剤「スカッシュ」（規格500ml：価格1,350円 270円/100ℓ散布）

被膜効果のある展着剤で、殺ダニ剤との相性が良く、防除効果が安定します。

（問合せ先：園芸課 金井、原澤、堀内 Tel.23-3933）

6/27の梅雨明け（平年比22日早い）以降、連日高温が続き、土壌干ばつ状態が心配されます。

水分ストレスによる生理障害も散見されていますので、下記を参考に対策を講じてください。

**気象特記** 6月下旬：平均気温 25.2℃（平年 23.5℃） 猛暑日 6/24 36.8℃

降水量 28mm（平年 46.2mm） 6/21以降、連日最高気温 30℃以上観測。

## ●共通

### かん水

天候やほ場の水分状態、土壌条件にあわせて、適宜かん水を行う。尚、かん水設備のない地域では土の湿潤状態を確認し、かん水が必要な場合は、タンク等で水を運んで無駄のないように樹冠下を中心に散水する（ほ場面積の60%程度）。水量が少ない場合のかん水時間帯は夕方が望ましい。また、蒸散防止のため、敷きワラ・マルチ等を行う。

### 熱中症予防

炎天下の長時間に渡る作業はできるだけ控えてください。また、作業中は帽子等の日焼け防止対策を万全にすると共に、十分な水分補給と休息時間を確保し、体調がすぐれない時は作業を中止して下さい。

### 害虫対策

ハダニ類・シンクイムシ類・アザミウマ類等の発生が心配されます。一定の間隔で定期散布を行い、密度抑制に努めてください。散布量は多めにし、死角が出ないように散布してください。

シンクイムシ類の被害果実は、園外で処分して下さい。

### 日焼け防止対策

主枝・亜主枝等の背面部分は日焼け果が発生しやすいため、徒長枝は全て切らずに間引く程度か、30cm程度残して切除して、「日除け枝」を設ける。また、葉がない部分は、白塗剤・ワラ・段ボール等で日焼け防止対策を講じることも有効です。

### 新梢整理

日焼けが発生しやすい南西方向の樹冠外部の切除量を減らし、日焼けが発生しないように配慮する。

## ●もも

- ◆早生種は、高温・多湿により成熟が進む傾向があるため、除袋・着色管理・収穫等が遅れないよう注意する。一方、中晩生種は高温干ばつにより成熟が遅れる傾向がある。
- ◆もも等で日焼け果の発生が心配される場合は、除袋する2～3日前に袋の下部を破り、外気温に馴染ませてから除袋を行う。

## ●りんご

- ◆ 高温乾燥は果実肥大や日焼け果発生への影響が大きいので、定期的にかん水を行う。
- ◆ りんごで日焼けの発生が心配される園では、園の南～西側に寒冷紗資材を設置する。
- ◆ 日焼け防止のため過度な徒長枝の除去を控え、日陰を適度に作る。
- ◆ 【要注意】園地によりハダニ類の発生が始まっています。特報を参考に初期防除を徹底して下さい。